

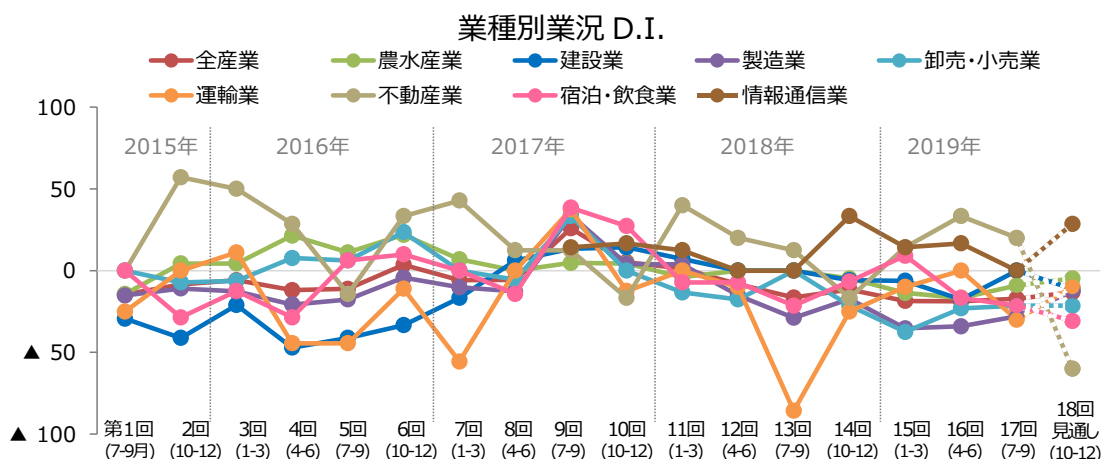
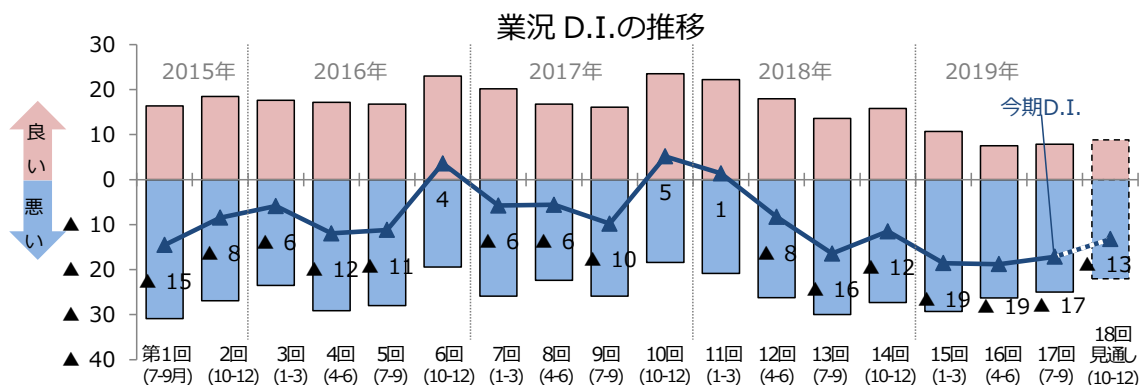
第 17 回 鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)結果概要

「第 17 回鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)」を実施し、結果をとりまとめましたのでお知らせします。

- 2019 年 7～9 月期の業況は「ほぼ横ばい」。
- 建設業は改善した一方、不動産業と情報通信業は下落、運輸業も大幅に下落しマイナスに転じた。
- 2019 年 10～12 月期の業況は「やや改善」する見通し。

業況 D.I.

- 今期は▲17(良い<悪い)と、前期(▲19)からほぼ横ばいで推移。
 - 全体としては 6 期連続のマイナス。
 - 前年同期(▲16)と比較すると、ほぼ横ばいとなっている。
 - 業種別では、建設業(前期▲18→今期 0)は改善した一方、不動産業(前期 33→今期 20)と情報通信業(前期 17→今期 0)は下落、運輸業(前期 0→今期▲30)も大幅に下落しマイナスに転じた。
- 来期は▲13(良い<悪い)と、やや改善する見通し。
 - 業種別では、今期下落した不動産業(今期 20→来期▲60)は更に悪化しマイナスに転じると見込まれる。一方、今期大幅に下落した運輸業(今期▲30→来期▲10)は依然マイナス圏に留まるものの大幅に改善、情報通信業(今期 0→来期 29)も大幅に上昇する見通し。



※ 上記は、業況 D.I.値の概況です。詳細は「鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)結果」を御覧ください。

概 況

業 況 D.I.	<p>○今期は▲17(良い<悪い)と、前期(▲19)から<u>ほぼ横ばい</u>で推移。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶全体としては6期連続のマイナス。 ▶前年同期(▲16)と比較すると、<u>ほぼ横ばい</u>となっている。 ▶業種別では、建設業(前期▲18→今期0)は改善した一方、不動産業(前期33→今期20)と情報通信業(前期17→今期0)は下落、運輸業(前期0→今期▲30)も大幅に下落しマイナスに転じた。 <p>○来期は▲13(良い<悪い)と、<u>やや改善</u>する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、今期下落した不動産業(今期20→来期▲60)は更に悪化しマイナスに転じると見込まれる。一方、今期大幅に下落した運輸業(今期▲30→来期▲10)は依然マイナス圏に留まるものの大幅に改善、情報通信業(今期0→来期29)も大幅に上昇する見通し。
生産高 D.I.	<p>○今期は▲20(増加<減少)と、前期(▲37)より<u>改善</u>した。</p>
売上・完工高 D.I.	<p>○今期は▲24(増加<減少)と、前期(▲19)より<u>やや悪化</u>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、卸売・小売業(前期▲21→今期7)は大幅に改善しプラスに転じたものの、農水産業(前期▲8→今期▲38)は大幅に悪化、運輸業(前期11→今期▲10)と情報通信業(前期33→今期▲14)は大幅に下落しマイナスに転じている。 <p>○来期は▲25(増加<減少)と、<u>ほぼ横ばい</u>で推移する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、今期大幅に下落した運輸業(今期▲10→来期10)と情報通信業(今期▲14→来期57)は一転、大幅に改善しプラスに転じると見込まれるものの、今期大幅に改善した卸売・小売業(今期7→来期▲14)は大幅に下落し再びマイナスに転じ、不動産業(今期20→来期▲80)も大幅に下落しマイナスに転じる見通し。
製品・商品在庫 D.I.	<p>○今期の在庫の過不足感は「過剰」が8%、「適正」が81%、「不足」が11%、D.I.は▲3(過剰<不足)となり、前期(▲5)から<u>ほぼ横ばい</u>で推移。</p>
製(商)品販売単価 D.I.	<p>○今期は1(上昇>下落)と、前期(3)から<u>ほぼ横ばい</u>で推移。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、不動産業(前期50→今期25)は大幅に下落、情報通信業(前期33→今期▲14)も大幅に下落しマイナスに転じた。 <p>○来期は4(上昇>下落)と、<u>やや上昇</u>する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、今期大幅に下落した不動産業(今期25→来期67)は、一転、大幅に上昇すると見込まれる。
原材料仕入単価 D.I.	<p>○今期は44(上昇>下落)と、前期(47)より<u>やや下落</u>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、運輸業は仕入単価 D.I.が83と前期(17)より大幅に上昇しているものの、製(商)品販売単価 D.I.は38と、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁しづらい状況であることがうかがえる。 <p>○来期は48(上昇>下落)と、<u>やや上昇</u>する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、宿泊・飲食業(今期64→来期62)はやや下落するものの、その他の業種は全て上昇か横ばいで推移すると見込まれる。
資金繰り D.I.	<p>○今期は▲11(楽<苦しい)と、前期(▲10)から<u>ほぼ横ばい</u>で推移。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、運輸業(前期▲25→今期▲63)は大幅に悪化、情報通信業(前期33→今期0)も大幅に下落した一方、不動産業(前期20→今期40)は大幅に上昇した。 <p>○来期は▲7(楽<苦しい)と、<u>やや改善</u>する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、今期大幅に悪化した運輸業(今期▲63→来期▲43)は依然マイナス圏に留まるものの大幅に改善、情報通信業(今期0→来期29)も大幅に上昇する見通し。

概 況	
雇 用 人 員 D . I .	<p>○今期は▲51(過剰<不足)と、前期(▲45)よりやや悪化した。</p> <p>▶業種別では、建設業(前期▲61→今期▲83)と卸売・小売業(前期▲29→今期▲50)は大幅に悪化、不動産業(前期▲50→今期▲20)は大幅に改善したもののマイナス圏に留まり、依然として全ての業種でマイナスとなっている。</p> <p>▶鹿屋公共職業安定所(鹿屋市、垂水市、肝属郡を管轄)の2019年7~9月の有効求人倍率の平均は1.36倍となっている。9月の有効求人数(パート含む)は3,840人、有効求職者数(パート含む)は2,766人となっている。</p> <p>○来期は▲50(過剰<不足)と、<u>ほぼ横ばい</u>で推移する見通し。</p> <p>▶業種別では、今期やや改善した情報通信業(今期▲57→来期▲29)は引き続き大幅に改善すると見込まれるものの、依然として全ての業種がマイナス圏に留まり、労働力不足の状態は続く見通し。</p>
損 益 D . I .	<p>○今期は▲30(好転<悪化)と、前期(▲22)よりやや悪化した。</p> <p>▶業種別では、不動産業(前期▲17→今期20)は大幅に改善しプラスに転じた。一方、運輸業(前期▲22→今期▲50)は大幅に悪化、農水産業(前期8→今期▲32)も大幅に下落しマイナスに転じている。</p> <p>○来期は▲23(好転<悪化)と、<u>やや改善</u>する見通し。</p> <p>▶業種別では、今期大幅に改善した不動産業(今期20→来期▲60)は、一転、大幅に下落しマイナスに転じると見込まれている。一方、製造業(今期▲35→来期▲15)と今期大幅に悪化した運輸業(今期▲50→来期▲11)は、依然マイナス圏に留まるものの、大幅に改善する見通し。</p>

【調査概要】

1 調査対象： 市内事業所 183 先

(農水産業 37 先、建設業 21 先、製造業 60 先、卸売・小売業 20 先
 不動産業 8 先、運輸業 11 先、宿泊・飲食業 18 先、情報通信業 8 先)

回答数：144 件 回答率：78.7%

2 調査時期： 2019 年 10 月

3 対象期間： 2019 年 7~9 月期実績(今期)、2019 年 10~12 月期見通し(来期)

4 調査方法： 郵送方式

5 集計方法： 回答数の構成比を求めた上で、「良い」の構成比から「悪い」の構成比を引いて「D.I.値」として指標化しました。

例えば、景況感の「良い」が 10%、「悪い」が 50%の場合、D.I.値は「▲40」となります。「D.I.」(DIffusion Index、ディフュージョン・インデックス)は、企業や業界の景況感などを数値化した指標で、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」(日銀短観)などで用いられています。

6 質問項目： 業況、生産高、売上・完工高、在庫、販売単価、仕入単価、資金繰り、雇用人員、損益、今期損益の好転・悪化要因、自由意見

鹿屋市 市長公室政策推進課

〒893-8501 鹿児島県鹿屋市共栄町 20 番 1 号

T E L : 0994-43-2111 F A X : 0994-42-2001

m a i l : seisaku@e-kanoya.net

第17回 鹿屋市短期経済観測調査（かのや短観）結果

(単位：%)

項目	2019年4~6月				2019年7~9月					2019年10~12月			
	前 期				今 期					来 期 見 通 し			
	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	DI (A-C)	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	DI (A-C)	前回 調査時 今期	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	DI (A-C)
自社の業況(景況感)	8	66	26	▲19	8	67	25	▲17	▲15	9	69	22	▲13
農水産業	4	75	21	▲17	9	73	18	▲9	▲4	10	76	14	▲5
建設業	0	82	18	▲18	6	89	6	▲0	▲12	0	89	11	▲11
製造業	6	53	40	▲34	4	64	32	▲28	▲30	13	63	25	▲13
卸売・小売業	8	62	31	▲23	7	64	29	▲21	▲17	0	79	21	▲21
運輸業	25	50	25	0	0	70	30	▲30	▲13	10	70	20	▲10
不動産業	33	67	0	33	40	40	20	▲20	17	0	40	60	▲60
宿泊・飲食業	0	83	17	▲17	7	64	29	▲21	▲25	8	54	38	▲31
情報通信業	17	83	0	17	29	43	29	▲0	33	29	71	0	▲29
生産高(製造業)	13	37	50	▲37	18	44	38	▲20	▲18	19	48	33	▲15
売上・完工高	19	43	38	▲19	17	41	42	▲24	▲14	14	46	39	▲25
農水産業	20	52	28	▲8	8	46	46	▲38	0	4	48	48	▲44
建設業	0	61	39	▲39	16	37	47	▲32	▲29	6	50	44	▲39
製造業	17	30	53	▲36	14	38	48	▲34	▲27	17	44	40	▲23
卸売・小売業	14	50	36	▲21	29	50	21	▲7	▲31	14	57	29	▲14
運輸業	22	67	11	11	20	50	30	▲10	0	30	50	20	10
不動産業	50	33	17	33	40	40	20	▲20	17	0	20	80	▲80
宿泊・飲食業	23	38	38	▲15	21	36	43	▲21	▲8	8	46	46	▲38
情報通信業	50	33	17	33	29	29	43	▲14	33	57	43	0	▲57
製品・商品在庫 (適正水準比)	多い	妥当	少ない	▲5	多い	妥当	少ない	▲3					
農水産業	0	87	13	▲13	5	90	5	▲0					
建設業	6	83	11	▲6	13	60	27	▲13					
製造業	7	76	17	▲11	8	82	10	▲2					
卸売・小売業	31	69	0	31	15	77	8	▲8					
運輸業	0	100	0	0	0	100	0	▲0					
不動産業	25	75	0	25	33	33	33	▲0					
宿泊・飲食業	0	83	17	▲17	0	93	7	▲7					
情報通信業	0	100	0	0	0	83	17	▲17					
製(商)品販売単価	上昇	横ばい	低下	3	上昇	横ばい	低下	1	10	上昇	横ばい	低下	4
農水産業	9	65	26	▲17	14	45	41	▲27	0	9	55	36	▲27
建設業	19	75	6	13	18	76	6	▲12	20	29	59	12	▲18
製造業	13	74	13	0	6	83	11	▲4	4	9	81	9	▲0
卸売・小売業	7	86	7	0	14	86	0	▲14	0	7	93	0	▲7
運輸業	25	75	0	25	38	63	0	▲38	38	50	50	0	▲50
不動産業	50	50	0	50	25	75	0	▲25	50	67	33	0	▲67
宿泊・飲食業	8	83	8	0	14	86	0	▲14	0	15	77	8	▲8
情報通信業	33	67	0	33	0	86	14	▲14	33	0	100	0	▲0
原材料仕入単価	上昇	横ばい	低下	47	上昇	横ばい	低下	2	44	上昇	横ばい	低下	48
農水産業	38	58	4	33	29	67	4	▲25	29	38	63	0	▲38
建設業	67	33	0	67	65	35	0	▲65	76	76	24	0	▲76
製造業	58	38	4	53	46	52	2	▲43	48	47	51	2	▲44
卸売・小売業	29	71	0	29	21	79	0	▲21	23	21	79	0	▲21
運輸業	17	83	0	17	83	17	0	▲83	50	83	17	0	▲83
不動産業	50	50	0	50	50	50	0	▲50	50	67	33	0	▲67
宿泊・飲食業	67	33	0	67	64	36	0	▲64	67	62	38	0	▲62
情報通信業	20	80	0	20	17	83	0	▲17	20	17	83	0	▲17
資金繰り	楽	普通	苦しい	▲10	楽	普通	苦しい	18	▲11	▲11	楽	普通	苦しい
農水産業	8	84	8	0	12	80	8	▲4	0	12	80	8	▲4
建設業	0	89	11	▲11	0	88	12	▲12	▲12	0	82	18	▲18
製造業	0	80	20	▲20	2	78	20	▲18	▲20	4	80	16	▲16
卸売・小売業	7	79	14	▲7	7	86	7	▲0	▲8	7	86	7	▲0
運輸業	0	75	25	▲25	0	38	63	▲63	▲25	0	57	43	▲43
不動産業	20	80	0	20	40	60	0	▲40	0	25	75	0	▲25
宿泊・飲食業	0	85	15	▲15	7	71	21	▲14	▲23	8	69	23	▲23
情報通信業	67	0	33	33	29	43	29	▲0	33	29	71	0	▲29
雇用人員	過剰	適正	不足	▲45	過剰	適正	不足	52	▲51	▲47	過剰	適正	不足
農水産業	0	79	21	▲21	4	63	33	▲29	▲21	4	67	29	▲25
建設業	6	28	67	▲61	0	17	83	▲83	▲65	0	22	78	▲78
製造業	4	45	51	▲47	2	49	49	▲47	▲48	2	46	52	▲50
卸売・小売業	0	71	29	▲29	0	50	50	▲50	▲38	0	50	50	▲50
運輸業	0	22	78	▲78	0	20	80	▲80	▲67	0	30	70	▲70
不動産業	0	50	50	▲50	0	80	20	▲20	▲50	0	80	20	▲20
宿泊・飲食業	0	54	46	▲46	0	50	50	▲50	▲54	0	38	62	▲62
情報通信業	0	33	67	▲67	0	43	57	▲57	▲67	0	71	29	▲29
損益	好転	横ばい	悪化	▲22	好転	横ばい	悪化	37	▲30	▲15	好転	横ばい	悪化
農水産業	20	68	12	8	8	52	40	▲32	4	4	64	32	▲28
建設業	0	78	22	▲22	5	63	32	▲26	▲18	0	68	32	▲32
製造業	11	47	43	▲32	4	56	40	▲35	▲20	9	67	24	▲15
卸売・小売業	7	57	36	▲29	0	71	29	▲29	▲23	0	79	21	▲21
運輸業	11	56	33	▲22	0	50	50	▲50	▲11	11	67	22	▲11
不動産業	17	50	33	▲17	40	40	20	▲20	▲17	0	40	60	▲60
宿泊・飲食業	7	50	43	▲46	7	50	43	▲46	▲31	0	58	42	▲42
情報通信業	0	83	17	▲17	14	71	14	▲0	0	14	86	0	▲14

※ 四捨五入の関係上、D.I.値(A-C)は一致しない場合がある。